

科目名	薬理学概論	担当教員	森満 館延忠 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------	------	-------------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	選択	2年次	後期	1単位	講義

科目概要	本科目では、まず、薬理作用を理解するための生物学的な基礎知識の習得に重点を置き、分子レベル、細胞レベル、個体レベルで、薬の作用のメカニズムを説明して、生体内における薬物の吸収、分布、代謝、排泄という薬理動態や有害反応を学ぶ。リハビリテーション対象者が投与されている主要な薬物を取り上げ、投与方法によつての違いも理解することにより、臨床講義や実習で必要とされる薬物治療の基礎を習得できることを目指す。
学習目標	薬理作用と作用機序、薬物の生体内運命と薬効、抗悪性腫瘍薬、免疫関連薬、心血管系作用薬、内分泌代謝作用薬、解熱鎮痛薬、向精神薬、抗パーキンソン薬、抗てんかん薬、抗生部質の作用機序、副作用を理解できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	薬理作用と作用機序	薬物受容体、拮抗作用、細胞内情報伝達系、投与量、有害作用など	薬理作用と作用機序の概要について説明できる。	
2	薬物の生体内運命と薬効	薬物投与方法、生体膜通過、吸収、分布、代謝、排泄など	薬物の生体内運命と薬効の概要について説明できる。	
3	抗悪性腫瘍薬、免疫関連薬	抗悪性腫瘍薬としての分子標的薬など、免疫関連薬としての免疫抑制薬など	抗悪性腫瘍薬、免疫関連薬の概要について説明できる。	
4	心血管系・内分泌代謝作用薬	心血管系作用薬としての降圧剤など、内分泌代謝作用薬としてのインスリン製剤など	心血管系作用薬と内分泌代謝作用薬の概要について説明できる。	
5	神経系作用薬 1	向精神薬である、抗精神病薬、抗うつ薬、睡眠薬、抗認知症薬の作用機序、使用法、副作用	向精神薬である、抗精神病薬、抗うつ薬、睡眠薬、抗認知症薬の作用機序、使用法を理解できる。	
6	神経系作用薬 2	抗パーキンソン薬、抗てんかん薬の作用機序、使用法、副作用	抗パーキンソン薬、抗てんかん薬の作用機序、使用法、副作用を理解できる。	
7	解熱、鎮痛薬	解熱、鎮痛薬の作用機序、使用法、副作用	解熱、鎮痛薬の作用機序、使用法、副作用を理解できる。	
8	抗生物質、抗ウイルス薬	抗生物質、抗ウイルス薬の作用機序、使用法、副作用	抗生物質、抗ウイルス薬の作用機序、使用法、副作用を理解できる。	
評価方法		筆記試験（記述式問題、多肢選択問題）		
教科図書		なし		
参考図書		野村隆英編 「シンプル薬理学」 改訂第5版 南江堂 2014年		
学習の準備		なし		
オフィスアワー		在室時はいつでも可能		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験				